

No. 2989 『新年座談会で激論 バロンズ誌の新年座談会の見通し』

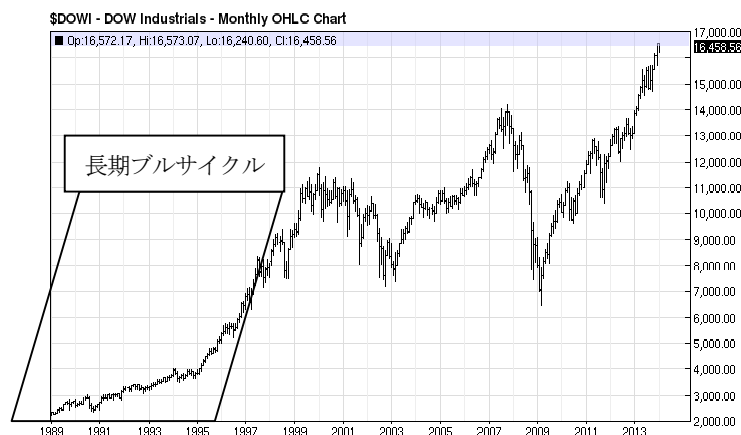
足立 真一

米バロンズ誌が先週初めニューヨークで恒例の新春座談会を開催した。海外からの 2 人を含めて 10 人の専門家が集まった。メンバーは毎年、同じ顔ぶれで、前年の座談会の具体的な推奨銘柄(ロング、ショート)の採点表も公開される。

出席者には相場や金融市場の見通しのほか、関心のある材料についての意見のほか、必ず具体的な有望銘柄の発表が義務付けられている。世界の投資家がこの座談会に魅力を感じるのは、この点で、注目株は翌年の座談会で成果が表にまとめられて公表される。出席者は真剣勝負で、運用者にとっては世間が自分の評価を下す大切なデータが公表されるようなものだ。よほど自信がなければバロンズ誌の出席への依頼は受けないだろう。ウォール街の合理主義の一端をのぞき見ることができる。

かつて 20 世紀が生んだ最高の運用者のひとりに数えられたマジェラン・ファンドのピーター・リンチもメンバーであったが、50 銘柄以上を並べ編集者に「注目しない銘柄を探したほうがまし」と冷やかされた逸話も残っている。今年はバロンズ誌の表現によると意見は大きく分かれ「熱烈な」「原理原則」「ときとしてたたき合い(ボクサーのように)」と座談会の模様をまとめている。

NY 株は長期ブルサイクルに入った？



NY 株が 5 年弱にわたる上昇を続け、世界的な金融緩和を背景に日米欧の株価は足かけ 5 年にわたる上昇を続け、NY ダウ、S&P500 は史上最高値を更新した。現実の相場の展開は昨年の座談会のコンセンサスをはるかに超える好調な展開であった。強気派は相場が長期のブルサイクルにはいったとみる。

昨年の推奨株で打率が 100%であったのはマリオ・ガベリ(Mario Gabelli/ガムコ・インベスターズ)だ。

推奨株はヒルシア・ブランズ(+15.10%・HSH)、ポスト・ホールディングス(+39.7%・POST)、バイアコム(+48%・VIA)、キシレム(+29%・XYL)、グラコ(+47.9%・GGG)、パターソン・コス(+17.4%・PCDO)、ウェザーフォード・インターナショナル(+34.3%・WFT)、ナショナル・フュエル・ガス(+48.5%・NFG)、ボウルダー・ブランズ(+28.7%・BDBD)、フィッシャー・コミュニケーションズ(+24.2%・FSCI)であった。座談会では古参格だが、メディア、消費関連などに造詣が深く、銘柄の選択にはファンダメンタル分析に徹するとともに、M&A、ヨーロッパ市場についても関心が高い。

彼の座談会の 2 年前の注目銘柄に欧米のスナック食品関連の銘柄の推奨があったが、そのヒントから私は東京市場でカルビーに注目して成功した経験がある。

座談会はバロンズ誌が 2 回に分けて 2 週間にまたいで掲載する。来週はマーク・ファーバーの見方が取り上げられる。